

# 漆生産量・輸入量の推移

## 国産漆と輸入漆

国産漆は、その主成分であるウルシオール含有率が外国産よりも高く、良質な漆として知られており、これまでも京都・鹿苑寺金閣、国宝の平泉・中尊寺金色堂などの日本の代表的な文化財の修復に使用されるなど、重要な役割を果たしています。

優れた品質を誇る国産漆ではありますが、外国産と比較したときの価格の違いなどから、国内全体の流通量の95%以上を、中国産をはじめとした輸入漆が占めており、国産漆が市場に占める割合はごくわずかとなっています。

## 国産漆の現況

昭和26年に33,750kgだった国産漆の生産量は、平成18年には1,326kgにまで減少しています。「浄法寺漆」も平成12年から平成19年までは1トンを割り込む状況が続き、漆掻き職人の数も高齢化と後継者不足により15人前後にまで減少してしまいました。

しかし、平成19年から世界遺産でもある日光二社一寺（二荒山神社、東照宮、輪王寺）の修理修復に6年間で4トン超の「浄法寺漆」が使われることになり、地域内における生産意欲向上につながっています。

平成21年現在では、新規就業者を含めて25名の方が岩手県浄法寺漆生産組合に所属し、生産量も1,400kgを超すまでに回復しています。



日光では平成 19 年から日本産（浄法寺漆）100%を使用して修復が進められています。

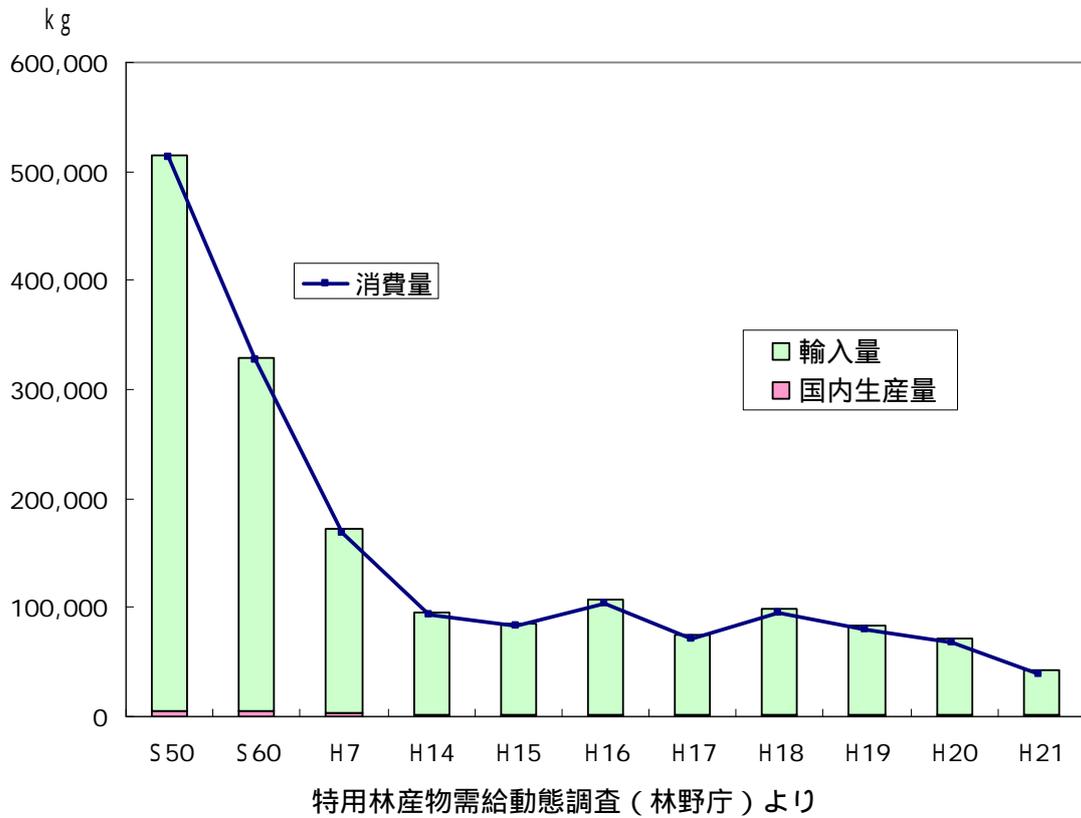


漆掻きの様子



滲み出した漆

## 漆の国内生産量と輸入量、消費量の推移



## 国産漆生産量の推移

